



12月、師走です。今年も残すところあとわずかとなりました。毎度の新型コロナウイルス感染症の話題で恐縮ですが、感染症第8波の広がりから、本校も含め市内においては児童生徒の感染が相次ぎ、学区内の小学校でも臨時休業となった学級があります。また、この冬は新型コロナウイルスに加えインフルエンザの同時流行も心配されております。そこで、基本的な感染症対策の徹底はもとより、ワクチン接種についても、時宜を逸することなくご検討願います。

◇栃木県第1位おめでとうございます

先月までに行われたコンテスト及びコンクールにおいて、本校生徒2名が栃木県第1位の快挙を成し遂げ、全国大会に作品等が出品されることになりましたので紹介します。

○「あなたのためのおべんとう」コンクール 栃木県大会県教育長賞 □□ □□ さん

○令和4年度全国中学生人権作文コンテスト

栃木県大会最優秀賞（宇都宮地方法務局長賞） □□ □□ さん

※□□□□さんの作文のラジオ朗読放送が、CRT 栃木放送にて、12月4日(日)午前10時から放送されます。また、12月6日(火)付け下野新聞にも掲載される予定です。

◇令和5年度新入生進学説明会

11月29日(火)、来年度入学予定の小6児童及び保護者を対象に進学説明会が開催されました。

コロナ禍の中、2年続けて小6児童を招いての説明会は見合わせたことから、3年ぶりの開催となりました。

児童たちは、まず全体会で学校概要及び学校生活についての説明を聞き、その後、模擬授業を体験したり放課後の部活動の様子を見学したりしました。

「中1ギャップ」の言葉のとおり、中学校入学当初は、環境の変化に戸惑いを感じる生徒も少なくありません。そこで、本校を含む田沼東中学校区の小中学校では小中一貫教育推進の取組として、この説明会を実施しております。

この説明会を通して、6年児童の皆さんに中学校生活について理解していただき、不安や戸惑い等がなく、充実した中学校生活が始めることを期待します。



◇勉強への“やる気”をどう出すか

11月30日（水）の全校朝会（校長講話）で、“やる気”を出すにはどうしたらいいかというテーマで生徒に講話しました。

勉強に対し、いかに“やる気”を出させるかは、日々生徒を指導する教員にとって大きな課題です。個別指導塾のコマーシャルのように“やる気スイッチ”を押せばすぐに“やる気”が出れば簡単ですが、実際はそんなことはありません。保護者の皆さんの中にも同じように考える方はいらっしゃると思います。

一方、“やる気”をなくすようにするのは簡単です。

<以下、家族がやってはいけない悪い例>

- ・やらなくてはと思っている時に、「やれ」と言う。
- ・今日はかなりやったなと思っているのに、「もっとやりなさい」と言う。
- ・疲れて休みたいと思っている時に「やれ」という。
- ・兄弟姉妹や友達と比較する。

さて、今回の校長講話の内容ですが、まず京都の大徳寺大仙院の住職、尾関宗園師が書いた文章を引用し、先取り精神が楽しい人生の鍵、勉強に限らず、仕事を楽しくするのも、人生を面白くするのも、すべて最初の「やる」「取りかかる」という段取りにかかっていることを伝えました。

さらに、アメリカ合衆国第16代大統領リンカーンの名言「もし、木を切り倒すのに6時間与えられたら、私は最初の4時間を、斧を研ぐのに費やすだろう。」からも準備や段取りが大切であることを伝えました。

では、勉強に対し生徒自らが“やる気”を出すためには、何から始めればいいのでしょうか。「将来の目標を立て、実現に向けて計画的に実行することだ」と言われても、それ自体ハードルが高く“やる気”を出すことは難しいことです。

そこで、簡単な準備・段取りで“やる気”スイッチが入る例として、生徒に次のようなことを伝えました。

<以下、生徒に伝えた簡単な取組例>

- ・朝、これまでより5分早く家を出る。
- ・学校で教室の自分の机の中を整理する。
- ・自宅で、自分の机を整理したり、部屋を配置換えしたりする。大掃除をする。

こうしたことで案外“やる気”にスイッチが入るように思います。

実際私も、子どもの頃、自分の部屋や、机の上を整理整頓したときは、何だか勉強に対し“やる気”が出たように思います。

今でも、毎朝、学校に出勤してまず行うことは机上の整理です。そうすることで、今日一日の仕事に対するモチベーションを高めています。

明確なエビデンスがあるわけではありませんが、まずは簡単なことから始めてみてはどうでしょうか。受験生も今から始めて遅くはないと思います。